

## 新潟県聖籠町 聖籠町立聖籠中学校

### ボランティア団体が地域交流棟を運営し交流活動を展開

- ・ ボランティア団体の活動スペースと学校開放を行うスペースからなる地域交流棟を、ボランティア団体が運営
- ・ 敷地周囲に囲障のない開かれた作り

- 中学校規模 / 12 学級 406 名  
(特別支援学級 / 3 学級 16 名)
- 複合施設(床面積) / 中学校 (12,060㎡)  
地域交流棟 (2,893㎡)
- 整備時期 / 平成 13 年
- 構造 / RC 造 (2 階木造) 地上 2 階



ボランティア団体が運営する地域交流棟 (写真左側)

### 施設整備の背景

- ・ 町内に 2 校あった中学校の統合に当たり、統合中学校建設推進委員会に町民が積極的に参加した結果、「生涯学習施設としての機能をもち、地域に開かれた学校」を目指すこととなり、地域交流棟の整備につながった。
- ・ 文教施設のインテリジェント化に関するパイロットモデル研究事業対象校。

### 管理・運営の体制

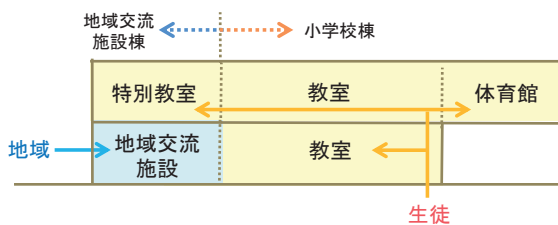
施設	利用時間 (平日)				所管	管理・運営
	8	12	17	22		
中学校	←→				教育委員会	中学校
地域交流棟	←→				教育委員会	ボランティア団体
			←→		教育委員会	町長部局

平日の日中は、ボランティア団体に地域交流棟の管理を委託。

### 施設の配置・動線

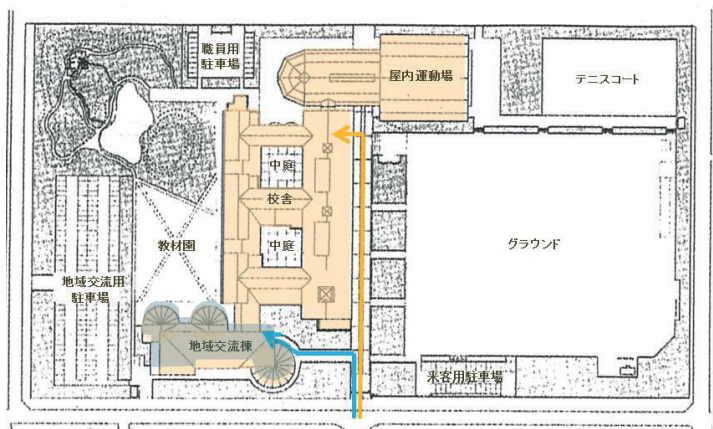
- ・ 地域に開かれた学校を実現するため、学校敷地の周囲に囲障は設けておらず、誰でも気軽に訪れることのできる開かれた作りとなっている。
- ・ 地域交流棟専用の入口を設置している。

#### <立面図>



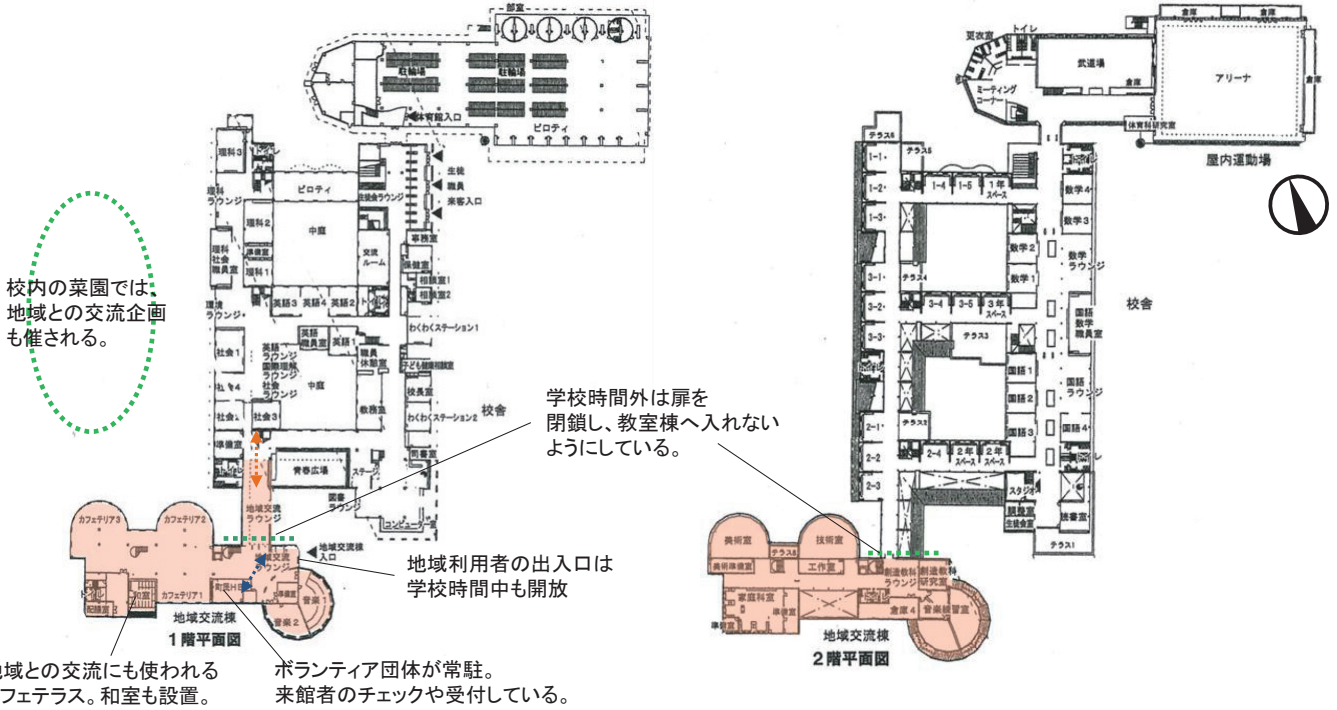
- 凡例
- 生徒 (Orange arrow)
  - 地域 (Blue arrow)
  - 中学校 (Orange box)
  - 社会教育施設 (Blue box)

#### <配置図>



平面計画上の特徴

- ・学校施設は大きく、教室棟・地域交流棟・屋内運動場、の3つの棟に分かれている。
- ・教室棟と地域交流棟の間は、時間に応じて扉で仕切ることができる。



ボランティア団体による地域交流棟の運営

- ・地域交流棟には、音楽室、美術室、技術室、家庭科室、ランチルームが入っており、それぞれ学校開放を行っている。
- ・学校開放を含む地域交流棟の運営は、常駐するボランティア団体が担っている。  
(運営費用は教育委員会が支出。)
- ・ランチルーム横の和室において、地域住民は給食を試食できる。



開放的なランチルーム



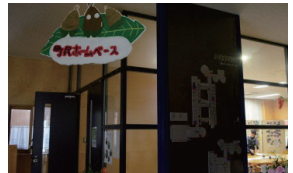
給食の試食にも使えるランチルーム横の和室

ボランティア団体と中学校の交流

- ・ボランティア団体の企画により、野菜作り、梅干作りなどの様々な体験活動を行っている。
- ・ボランティア団体が、国語や家庭科の授業に協力している。
- ・ボランティア団体が常駐する「町民ホームベース」はガラス張りとなっており、中学生と地域住民がお互いに存在を感じ合うことができる。



ボランティア団体と一緒に野菜作りをする中学生



ガラス張りの町民ホームベース

防犯面の取組

- ・学校敷地の周囲に囲障は設けておらず、誰でも気軽に訪れることのできる開かれた作りとなっている。
- ・地域交流棟の入口を設けており、常駐するボランティア団体が入館者をチェックしている。
- ・17時以降には、校舎棟と地域交流棟間のシャッターを下ろすことにより、地域交流棟から校舎棟へ人が入らないようにしている。



約6haの広大な敷地は、囲障のない開かれた作りとなっている

ボランティア団体の成り立ち

- ・統合中学校の整備を機に、住民が中心となり、「聖籠町統合中学校を育てる会」が発足。
- ・「森づくり」「イベント」「地域交流ゾーン活用」をテーマに掲げ、ボランティア団体「せいろろ共育ひろばみらいのたね」が発足。
- ・PTAや町内会でもないボランティア組織として、子供たちへのより良い教育環境の提供を目指して自主的に活動を行っている。



町民ホームベースの内部

委員の意見より

- ・有識者のみならず多くの住民の参加を得て、中学校づくりについて丁寧な検討が行われている。地域住民を巻き込んだ検討のプロセスが後に地域の学校に対するサポートにもつながっている点は重要である。
- ・一方で、ボランティア団体の存続の是非を問う雰囲気も出たとの話もあった。団体独自の活動は会員の会費に頼っていることもあり、地域住民の自主的な活動の持続可能性の確保が課題と言えるかもしれない。